

ワヤン・ベベルと現代バリ芸術

1. 日 時 10月5日(金) 17時～19時

(開場16時30分予定)

2. 場 所 南山大学名古屋キャンパス

R棟フラッテンホール

3. 内 容

第1部 「ワヤン・ベベル」上演

ガムランの生演奏とともに、ダラン(語り手)が日本語で絵巻物語を語ります。

第2部 トークセッション「ワヤンと現代バリ芸術」

現代バリ芸術の frontline を知る小谷野氏とスギ氏に、ワヤン・ベベルと現代バリ芸術について語っていただきます。

4. おもな出演者

グループ「ウツテノヤ子」(代表 小谷野哲郎氏)

Dewa Rai 氏(ガムラングループ「スダマニ」監督)

Dewa Sugi 氏(ワヤン・ベベル創作者)

バリ島やジャワ島に伝わる影絵人形劇ワヤン・クリッ(wayang kulit)は、世界無形遺産にも登録された、インドネシアを代表する伝統文化のひとつです。マハーバーラタやラーマーヤナといったインド由来の叙事詩をおもな題材に、ダラン(dalang)と呼ばれる人形遣い兼語り手が、美しいガムランの音色に合わせてユーモアに満ちた物語を語ります。

ワヤン・ベベル(wayang beber)は、人形をもちいたワヤン・クリッの、いわば布絵版といえます。もともとジャワ島にワヤン・ベベルはありましたが、ジャワ社会がイスラーム化していく中でワヤン・クリッがより普及していったのにたいし、ワヤン・ベベルは廃れていったようです。また、ジャワからヒンドゥーの文化遺産を受け継いだバリ島において、ワヤン・クリッはいまも根強い人気をしていますが、ワヤン・ベベルはバリには伝わらなかったようです。

今回上演するワヤン・ベベルは、そうしたジャワの古典文化であるワヤン・ベベルにヒントを得て、気鋭のバリ芸術家があらたに創作した現代芸術といつてよいものです。14世紀のジャワのマジャパヒト王国の宮廷詩人タントラールが記した仏教典物語「スタソーマ」をモノクロ細密画として描いた絵巻に合わせ、日本人のダランが、ときには舞踊も舞いながら、ガムラン音楽の伴奏とともに、人間の生と欲望の究極の意味を問う物語を紡ぎます。



絵巻「ワヤン・ベベル」の最初の絵
カヨナンと呼ばれる宇宙樹とタントラール

※ 入場無料です。

※ 会場の中後方席からは、絵巻の細部を見ることができません。できるだけオペラグラスなどをご持参ください。

お問い合わせ先 【南山大学人類学研究所】

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18

Phone: 052-832-3111(代表)

E-mail: ai-nu@ic.nanzan-u.ac.jp